

論文

工業高校における生徒の自己概念と自尊感情との関連性  
—1年生を対象とした調査から—

Relationships between Students' Self-concept and Self-esteem in Technical High Schools  
-From the Survey on 10th Grade Students-

島田 和典\*, 市原 靖士\*, 阪東 哲也\*\*  
Kazunori SHIMADA, Yasushi ICHIHARA, Tetsuya BANDO

\*大分大学 教育福祉科学部

Faculty of Education and Welfare Science, Oita University

\*\*兵庫教育大学連合大学院(院生)

Graduate School of Education, Hyogo University of Teacher Education

要旨

本研究の目的は、工業高校における生徒(以下、工業高校生とする)の形成する自己概念と自尊感情との関連性を検討することである。工業高校生1年生737名を対象に、「工業高校における生徒の自己概念尺度(2007)」及び「自尊感情尺度日本語版(1982)」を用いた調査を実施した。自己概念上位群(345名)・下位群(339名)それぞれの自尊感情の尺度得点を集計し、分散分析を実施した結果、上位群が下位群より高い自尊感情を形成している傾向が明らかになった。その上で、自己概念が自尊感情に与える影響を検討した結果、両群に共通して自己概念のF1自律志向性因子の正の影響力が認められた。一方、下位群のみに、F4社会的価値志向性の負の影響力が認められる等の特徴がみられた。

キーワード：工業高校、生徒、自己概念、自尊感情

工業高校「課題研究」による教育効果の一考察  
—卒業後の追跡調査を踏まえたキャリア・アンカーの視点から—  
A Discussion on the Educational Effects of a “Project Study” in Technical High School  
-Focusing on the Development of a Career anchor through a Follow-up Survey of Graduates-

山田 啓次\*, 島田 和典\*\*  
Keiji YAMADA, Kazunori SHIMADA

\*大阪府教育委員会

Osaka Prefectural Board of Education

\*\*大分大学 教育福祉科学部

Faculty of Education and Welfare Science, Oita University

要 旨

本研究の目的は、教科工業の科目「課題研究」による教育効果を、工業高校卒業生を対象とした追跡調査から明らかにすることである。調査対象の卒業生8名は、工業高校3年生次に「課題研究」において小型BDF実験装置(2005年度)及び製造装置の製品開発(2006年度)に取り組んだ。本授業実践は、「計画」「設計」「製作」「評価」「改善」の要素を実体験するよう構成している。卒業後、3年目に就業状況の調査を、8、9年目は就業状況と共に、「課題研究」が自身に与えた影響について問う追跡調査を実施した。卒業生の卒業後8、9年間の就業状況を基に①継続型(4名)、②キャリアアップ型(2名)、③早期離職アルバイト型(2名)の3タイプに類例化を行った。その上で、これら3タイプについて、在学時の「課題研究」への取り組み状況を当時の資料や担当教員らへのインタビューによって検討した。その結果、「課題研究」は自己の進路選択につながることや、「課題研究」による学習経験が、卒業後の現在の自己に影響を及ぼしていること等が認められた。すなわち、「課題研究」は、生徒のキャリア・アンカーの形成に重要な役割を与えうることが明らかになった。

キーワード：工業高校生、課題研究、追跡調査、製品開発、キャリア・アンカー、産業教育